



【オリエンテーションと干潟調査】

令和6年4月27日（土）

8：30 -12：30

場 所：南三陸町自然環境活用センター
折立海岸

スタッフ：南三陸ネイチャーセンター友の会
南三陸町自然環境活用センター



「いよいよ活動開始!？」

・今年も調査隊の活動がいよいよ始まりました。今年度の新メンバーは18名と多くの隊員たちが集まりました。昨年度から継続の隊員のほかに、新しい隊員が5名入隊してくれました。

1回目の活動は13名の隊員が参加し、オリエンテーションと干潟調査を行いました。オリエンテーションでは、自己紹介や調査隊についての説明、ゲームなどをしてコミュニケーションを深めました。今年度、みんながやってみたい活動は、スノーケリングが最も多く、川の生きもの調査、船釣り調査、海藻おしばなどがあげられました。みんなの希望ができるだけ多くかなえられるように、準備していきたいと思います。



「折立海岸はどんな場所??」

・折立海岸は、ネイチャーセンターの目前に広がる海岸で、折立川の河口付近に位置しています。2015年の復旧工事で今の状態の人工干潟になって以降、約30種あまりの生きものが毎年見つかっています。



「どうやって調査をするの？」

- ・干潟で生きものを見つける「3つのワザ」
 - ①しゃがんで目線を近づける
 - ②石の下や隙間をのぞく
 - ③シャベルを使って砂の中の生きものを掘り返すを使って折立海岸の生きもの（種類）をできるだけ多く見つける調査を行いました。



「さあ、どんな生きものが見つかるかな!!」



「どんな生きものがいたの？」

・今回見つかった種類は、ヒメケハダヒザラガイ、クモリアオガイ、イシダタミ、タマキビ、アオモリムシロ、ムラサキインコ、マガキ、オニアサリ、アサリ、スナイソゴカイ、シロスジフジツボ、ヨコヤアナジャコ、ユビナガホンヤドカリ、イソガニ、ケフサイソガニ、イボニシなど、合計52種でした。

・このうち、イシダタミ、マガキ、イボニシは、13人中10人以上が見つけた『優占種（ゆうせんしゅ）～折立海岸に多く住んでいる種～』（発見率が70%以上の種）になります。

・他には、ツブカワザンショウ（絶滅危惧Ⅱ類：宮城県）、オニアサリ（準絶滅危惧：宮城県）、カネココブシガニ（準絶滅危惧：宮城県）、チビイトマキヒトデ（情報不足：宮城県）も見つかりました。これらは、絶滅のおそれがある希少な生きものをまとめたリスト（レッドリスト）にのっている種です。

【今後の予定】

☆6月16日（日）田んぼの生きもの調査（予定）

☆7月20日（土）八幡川の生きもの調査

※詳細は後日お知らせします。是非ご参加ください。

